

## チュートリアル課題 我慢の結果

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032346">https://doi.org/10.20780/00032346</a>

2014年度 Segment. 6

課 題 No.3

課題名：我慢の結果

課題作成者：整形外科学  
解剖学

伊藤 匡史



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

五里ヶ峰熊吉君(22歳)は、大学3年生の柔道部員です。相手を投げようとしたところ、自分の左脚に相手が乗りかかってきて、そのまま左膝を内側に捻じりながら屈曲する体勢でひねりました。持ち前の根性で持ちこたえようとしたのですが、激痛のあまりその日は練習続行不可能でした。2時間ほどで膝の腫れが目立ってきました。

シート2

柔道部の亜鈍先輩の実家が整形外科医院なので松葉杖で亜鈍整形外科に向かいました。  
亜鈍医院長の診察を受けた後に、単純X線写真撮影を行いました。注射器で膝に溜まっていた液体を抜かれたら、膝の腫れが少し引きました。

シート3

亜鈍医院長：「触診の結果、明らかに靭帯が切れている様子はない。レントゲンでも骨折はない。膝の中の血は今日怪我したばかりなので仕方ないだろう。受傷後2日間はよく冷やして安静にして、来週受診するようにね」

熊吉：（そうか、骨も靭帯も大丈夫か。痛みはあるけれど、さっきよりは治まったし、血を抜いてもらったから少し楽になった。とりあえず一安心だ。）

1週間後、腫れや痛みは軽減し体重をかけても痛くなくなり、屈伸もスムーズに出来るようになり、引っかかる感じもありません。

亜鈍医院長：「一週間でこれだけ良くなったから、やはり捻挫だったようだね。痛みが完全に引けば柔道やっていいよ」

その一週間後（受傷2週間後）で完全に膝の屈伸は出来るようになったので柔道に復帰しました。

シート4

柔道復帰後、「膝がズレるような感覚」が出てきたので、主将の佐夢損先輩に尋ねました。

佐夢損：「筋トレが足りないんだよ、きっと」

「筋トレが足りない」と言われたので、筋トレに励みましたが、膝が「ガクッとズれる」感覚は時々ありました。「ガクッとズレた」あとは腫れと痛みがありましたが、腫れが引いた後は、曲げ伸ばしも問題なくできていたので、そのまま練習を続けました。膝の具合も良くなり学生時代を終えました。

シート5

引退後は、日常生活動作でも「膝がガクッとズれる感覚」が時々ありました。ガクッとズれない時も少し痛くなって、腫れることもありましたが、多忙のため、病院にかかりませんでした。

10年後、ジョギングを開始したところ、「大きく膝がガクッとズれる感覚」がおきました。今回はいつもより痛みも強く、膝が曲がったまま伸びなくなっていました。膝もひどく腫れてきました。

シート6

膝関節専門の整形外科医である沙舞医師の診察を受けることとしました。

沙舞医師：「膝が伸びなくなってしまったんですか？」

熊吉：「膝がガクッとズレたあとに曲がったまま伸びなくなってしまいました。今までもたびたびズレる感覚はあったのですが、伸びなくなってしまったのは初めてです。膝の中で何かが引っかかっている感覚です」

沙舞医師：「。。。昔、膝の怪我をしたことはありますか？」

熊吉くんは今までの経緯を話しました。

沙舞医師：「なるほど、まずは診察と必要な検査をしましょう」



シート7

沙舞医師：「MRIの結果ですが、前十字靭帯が途切れています。内側半月板が膝の中で引っかかっています。手術が必要です」

熊吉：「手術が必要なのですか？」

沙舞医師：「前十字靭帯は大学生の時に痛めていたのだと思います。放置すると他部位の損傷を起こすため、グラつきがある場合は前十字靭帯の治療が必要です」

熊吉：「私の場合はどうなのでしょう？」

沙舞：「変形性膝関節症が始まってますから靭帯の手術をしても変形性膝関節症の痛みは残る可能性があります。」

熊吉：「。。。 (もっと早く専門の先生に診てもらってればよかった。。。)」